

継承として、行政機能の集中を新たに獲得することができた。

福島県会津高田町の農業

—特に薬用人参について—

鈴木 勢津子

会津高田町は福島県大沼郡の東部に位置し、地形は全般的に山がちであるが、町の北東部には会津盆地の一部を成す宮川扇状地が広がっており、肥沃な水田地帯を形成している。このため、耕地の殆どは会津盆地上にあり、稲作中心の農業が行なわれている。ここでは肥沃な土壌や夏季の高温によって水稻の反当収量が多いが、多雪地帯であるため、裏作は殆ど行なわれず、水田単作農業の傾向が強い。

宮川扇状地の南西端に耕地をもつ永井野地区では傾斜地が多いため、水田率が比較的 low 低く、果樹、工芸作物類の栽培面積の比率が大きくなっている。永井野地区は会津高田町の中でも薬用人参の栽培が最も盛んな地域であるが、その中心地は会津みしらず柿の量産地でもあり、ここでは稲作と薬用人参及びみしらず柿栽培によって農業経営を行なっている農家が多い。

薬用人参は、栽培農家数や収穫面積が非常に少ないので、町全体の農業における地位が低く、農業生産の上で特に重要な作物であるとは言えず、栽培地域としての特色も殆ど見られないが、栽培農家に限って見れば、経営形態などに特色があり、反当収入が多く、まとまった収入が得られることから、農業所得に占める割合が比較的高く、主要作物のひとつとなっている場合が多い。しかし、価格の変動が激しく、不安定な作物であるため、薬用人参の単一経営ということはまず考えられない。また、現在の栽培農家の多くは栽培歴が長く、ある程度の伝統をもつ農家であり、最近になって栽培を始めたというような例は殆どない。

この地域では薬用人参栽培に伴い、薬用人参の加工も古くから行なわれ、農家の副業として発展してきた。加工の仕事は薬用人参収穫後の非常に短い間しか行なえないので、専業にすることはできないが、この時期がちょうど農閑期に当たるため、農家の副業としては手ごろな仕事といえる。しかし、現在では人参農協の力が大きく、また、栽培もそれほど盛んではないので、薬用人参加工業はあまり盛況をみなくなり、業者の数も激減してきている。

千葉県八街町の農業地理学的考察

高崎 祐子

本論文は首都圏における一畑作地域を取り上げ、そこに展開した農業について考察することを通して広く今日における農業の実態とその問題点を考えてみようとしたものである。

対象地域としての八街町は東京から約 50 Km の距離にあり、千葉県北部に広がる下総台地のほぼ中